認知症をわかりたい（7）

ある日の「講座」をのぞいてみた

協力：長野県岡谷市・共立福祉会

■認知症は全国に169万人存在し、20年後には倍増するとみられる病気です。認知症の人を見守れる人を増やそうという講座も各地でおこなわれていますね。このページでは、みなさんといっしょに、ある日ある場所でおこなわれた講座をのぞいていきます■

私たちは認知症の方とどう接すればいいのか。その気持ちに一歩でも寄り添うには？　身近にありそうな場面を、お芝居仕立てでご覧いただく「その４」。今回は、グループホーム発。

ピクニック日の巻（上）

〈場面〉認知症のお年寄りたちが生活するグループホーム。今日は自然のきれいな野外で、お弁当を食べるんだそうです。入居者の太郎さんは…。

職員Ａ：（太郎さんの部屋に来て）おはよう、早く着替えて。お出かけよ！

太郎さん：ええ？　出かけるのかい？

職員Ａ：きのうも言ったじゃない、すぐ忘れるんだから。

太郎さんの心の声…何のことをいっているかわからないなあ、聞いてたような気もするし、初めて聞く気もする。オレの頭、ヘンなのかなあ。

職員Ｂ：お薬を持ってきました。

太郎さん：ありがとう。何の薬だ？

職員Ｂ：血圧のお薬ですよ。

太郎さん：ああ。…それで、これは何だ？

職員Ｂ：太郎さんの血圧を正常に保つお薬です。

太郎さん：そうか、ありがとう。

太郎さんの心の声…いったい何の薬を飲まされるかと思ったよ。血圧に効くんなら、飲まないとな。

〈場面〉支度し、乗り込んだ車中で。

職員Ｂ：太郎さん、これから○△公園に行きますよ、気分はいかがですか？

太郎さん：（一応うなずくが）外へ出るのは、いやだなあ。

職員Ｂ：そうですね、暑すぎてはいけないし、帰る時間を早めましょうか？

職員Ａ：あら、せっかくの外出だから、たまにはのんびり楽しみたいわ。

（太郎さん、Ａの腕につかまってくる）

太郎さん、どうしたの？　腕につかまったりして。いやだ、もしかして私のこと、好き？

太郎さんの心の声…いったいどこへ連れて行かれるんだろう。置いて行かれたら、一人では帰れなくなるよ。はぐれたら困る。オレ、不安なんだ。

職員Ｂ：さあ、着きましたよ。

太郎さん：（あたりを見まわす）きれいだなあー。

職員Ｂ：きれいですねえ、来てよかったですね。

太郎さん：来てよかった。

職員Ｂ：では、お弁当にしましょうね。

認知症を学ぶ（伊那谷健康友の会・熊谷光栄通信員）

ほっと介護 ⑧⑧

不安強く、緊張しやすい

聞いていたことを忘れていたり、何度も同じことを質問したり…。もの忘れが主症状で、記憶の連続性が保たれなくなる疾患・認知症の方によくみられる反応です。不安や緊張も強くて、疲れやすい、感情が乱れやすくなることもあります。

職員Ａさんには「悪い例」を演じてもらいましたが、職員Ｂさんは、そういった特質を踏まえ、ゆっくりと太郎さんにつきあっていましたね。車の中で、不安でいっぱいになってしまっていた太郎さんでしたが、Ｂさんが「きれいな景色ですね」と、同じ視点で共感したことで、安心できました。